

株式会社アイ・エス・ライン



【取材ご協力】
株式会社アイ・エス・ライン
〒437-0066
静岡県袋井市山科3415-1
輸送業務担当 小関 友彦様

2000年に静岡県袋井市で設立。「こだわりがないことがこだわり」と荷物の種類に固執せず、一般貨物から宅配まで幅広い荷物を配送しています。

アルコール検知器の使用が法律で義務化された当初から、安全輸送に力を入れる事が他社との差別化になると考え、東海電子の『ALC-miniIV』、『ALC-ZERO I』を相次いで導入。現在は大型トラック全車両50台にアルコールインターロック装置『ALC-ZERO I』を搭載しています。



「飲酒運転ゼロ」は会社の成長の大前提

必要な行動をルーティン化

「ALC-ZERO Iの導入によって、出発準備の一連の流れをルーティン化できた」と話してくださったのは、輸送業務担当の小関友彦さん。アルコール検知器と一緒に免許証や伝票など必要な物を準備するため、忘れ物が減少。また、法定休憩時間に合わせて4時間おきにアルコール検査ができるようにタイマー設定しているため、タイミングを逃さず実行できます。

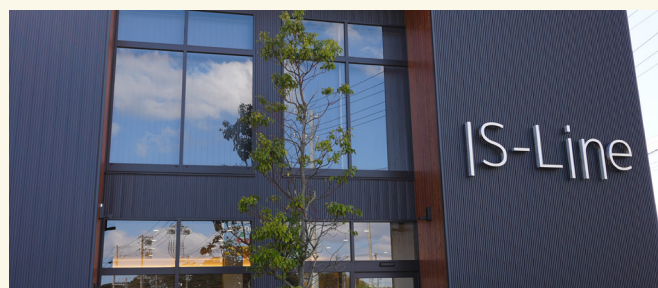
ALC-ZERO Iを導入すると、検査前だけでなく勤務時間外や休暇中の飲酒においても、次の勤務に影響が出ないように量とタイミングを調整するなど、個人の自己管理意識の向上がみられるそうです。

アルコール検査漏れ防止に効果を発揮

以前はお酒を飲まない方が飲酒検査の必要性を感じにくく、検査することを面倒に思うこともあったそう。しかし、『ALC-ZERO I』は、検査をしないとエンジンがかかりません。必然的に全員がアルコール検査を行い、アルコールゼロの状態での出発することができます。センサーの精度は申し分なく、芳香剤や汗拭きシートなどのアルコールも検知してしまうほど。その際は、車内を換気して測定し直す多少の手間はありますが、そこまで徹底的にアルコールを検知してくれるからこそ、東海電子の機器への信頼は厚いのです。

機能とアフターサービスの充実

搬入の受付や荷物の積み降ろしなど短時間の間に車を乗り降り、発進することが多いため、管理者が指定した時間内は再測定をせずにエンジンが始動できる「フリータイマー機能」は、ドライバーにとって必要不可欠。アイ・エス・ライン様の場合、30分は再測定をせずにエンジンを始動できる様に設定し運用しています。そういった細やかな機能に加え、センサーユニット交換時期のアナウンスなどアフターサービスがしっかりしているのも魅力。今まで機器の故障もなく、運用面で不便に感じることはなかったそうです。継続して利用できることが安全管理にとって重要なため、こうした便利な機能があることや、アフターサービスが整っていることの意味は大きいのです。



安全への取り組み

社内での安全会議や管理者との対面指導を通して、全員一丸となって安全意識の向上に努め、安全性優良事業所（Gマーク事業所）の認定も取得。制限速度遵守、休憩休息、飲酒運転の防止に力を入れ、トラックに限らず自動車を運転する上で当たり前のことを必ず実行できるように、また、人間の手を介することで発生しうる精度のばらつきを極力発生させないように、積極的に最新機器を導入し安全対策をしています。

飲酒運転ゼロへの思い

飲酒運転によって引き起こされる不幸な事故が、未だ後を絶ちません。「アルコール検知ゼロ」は当然の義務ではありますが、それを継続することによってはじめて皆様の安全に貢献できます。「飲酒運転をこの世からなくしたい、一人ひとりがその一端を担っているという自覚を持ち続けることで、飲酒運転のない世の中が実現できる」と小関さんは語ります。

【使用機器】
・アルコールインターロック ALC-ZERO I
・設置型アルコール検知器 ALC-miniIV

取材後記

「人によってものごとの解釈度合いが異なることを肝に銘じ、社内教育も一斉指導ではなく、対面でのコミュニケーションを常に心掛けています」というお話が印象的でした。一人ひとりのドライバーさんを包み込む存在となり、会社とともに成長していきたいという小関さんの想いを伺い、アイ・エス・ラインの発展を支えるのは社内の強い信頼関係なのだとな納得しました。